

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・住宅の耐震性や住宅ローンの金利など、家を取得する際の客の不安要素が解消されてきた。
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客に上質志向が見られ、生活を豊かにする商品に対する購買意欲がおう盛である。新しいデザインや色調の優れたバッグ、洋服など旅行・行楽関連商品への関心が高い。
乗用車販売店 （総務担当）		販売量の動き	・久しぶりに県内の車市場が盛り上がりを見せ始めており、当社でも来客数が増加傾向にある。新車販売では新型ミニバンが好調な売行きを示し、また団塊世代向けのセダンなども好調を維持するなど、10月の販売は総体的に前年を上回った。	
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・百貨店を核とする大型再開発ビルがオープンした結果、通行客は増加した。しかし、集客は特定店にとどまっており、周辺商店街への波及効果がまだ出ていない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資は依然として厳しい状況にある。さらに合い見積が多くなり、売上面でも利益面でも一層厳しくなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・物産展や優待会が開催されない週は、来客数の落ち込みが激しい。現状は秋冬物がようやく動き出したという状態であり、まだ前年の活気にまで戻っていない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・販売量は徐々に回復傾向にあるが、前年比較ではまだ下回っている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・販売量に変化はないが、仕入価格の値上がりや光熱費の上昇による影響が少しずつ出始めている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・月の後半から冷え込みが続き、特に衣料・雑貨品が好調に動いている。暖冬だった前年と比較すると売上は伸びているが、景気が良いという実感は薄い。
		スーパー（営業担当）	競争相手の様子	・原油価格の高騰や穀物の世界的高値の影響から食品価格の値上げが目前に迫っているなか、消費者に価格の凍結をアピールする競合店の動きが加速している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・店舗のリニューアル効果により、来客数、売上共前年を上回った。しかし、客は価格に敏感なため特価品しか買わず、客単価は大幅に低下した。月の後半は改装効果も落ち着き、前年実績を維持するのがやっとの状態である。
		乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・高級車やサービス部門のけん引により、売上は前年実績を超えているが、新車販売は依然として小型車が中心のため、大型車の取扱が多い当社は苦戦している。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・原油価格が高過ぎる。元売りはきっちり値上げしてくるが、ガソリンスタンドでは消費者の抵抗が厳しいため、価格転嫁は不十分のままである。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・ランチでは低単価コース、ディナーでは高単価コースの売行きが好調である。しかし、今年は例年に比べ団体旅行客の利用が少なく、来客数の減少により苦戦している。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・夏の販売促進も終わり、落ち込みを予想していたが、前年との比較では横ばい状態である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・売上は前年並みである。近くの温泉地も同様である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店サイクルが依然として長引いており、なかなか戻らない。
		住宅販売会社 （総務担当）	お客様の様子	・物件を見極める客の慎重な姿勢は変わらず、成約後であっても流動的な傾向が見える。
やや悪くなっている		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・来客数は依然として低迷を続けており、改善の兆しが見えてこない。観光客はもとより地元客の動きも非常に悪くなっている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・ようやく寒くなってきたが、婦人服は単品買いが目立ち、客単価が低下している。加えて来客数が少ないため、売上は前年の89%と苦戦している。

	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価の落ち込みが顕著である。客はガソリンの値上げなどによる支出増加を抑えるために、必要な物しか買わない。そのうえ必要な物であっても安い店を求めて買い回りをしているため、買上点数が減少している。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・ガソリン価格や原材料の高騰による食品価格の引上げにより、消費者は日用品の価格に敏感になっている。このため、競争各社共に価格を据置きとするなど、更なる低価格競争に拍車が掛かっている。
	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・月前半の気候は暖かく、秋冬物が本格的に動き出したのが後半となったため、月全体としては厳しかった。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・石油製品などの値上がり報道され、先行き不安感から欲しい物でも今はまだ買わないという客が多くなった。特に薄型テレビなどは「まだまだ安くなるから」という声をよく耳にする。それでも以前は接客話法で売っていたが、最近はかなり厳しくなっている。
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・欧州車は低価格車と超高級車に二極化していたが、最近購入顧客層が職業や収入により更に偏ってきた感がある。医療関係や大企業の従業者は比較的堅調である。
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・広告チラシなど販促活動を行っているにもかかわらず、集客につながっていない。客はガソリン高騰などの影響から自動車関連の支出を抑えている。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年、来客数の少ない10月だが、客の注文の仕方も渋くなっている。客の顔ぶれを見ると現役を退いた人が増加しており、新規客は少ない。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン利用客、販売室数、大型宴会などの減少により、売上が前年を下回っている。レストラン利用客の前年割れは数か月続いており、大変危惧している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ガソリン価格や諸物価の値上げの影響で、客からは夜の街へ出掛ける回数を減らしたり、交通費を削減するという話がよく聞かれる。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月は大きなイベントもなく、夜の街は週末でも客が少なかった。
	通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・携帯電話の競合店増加により来客数が減少している。家電量販店での値引き販売や競争相手への移行に伴う解約増加が響いている。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の新機種発売が翌月に迫っているため、客の買い控えが発生している。一方、店側も新商品の発売に向けて既存品の入荷を制限しているため、品切れ商品が増え、提供商品の数が減っている。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・能登半島地震から半年が経過し、風評被害の影響は減少しているものの、来場者数は前年比1割超の減少が続いている。売店の売上単価も低下しており、風評以外に客の消費意欲の減退が大きな要因となっている。
	その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・今月に入り、入館数が大きく落ち込んだ。遠方客、地元客のいずれも減っており、特に土・日曜日が厳しかった。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ローコスト住宅メーカーが1社倒産した。また建築基準法の改正により審査が厳しくなり、着工が大幅に遅れている。
悪くなっている	スーパー（店長）	お客様の様子	・今月のキーワードは「所得格差」と「生活防衛」である。客の行動を見ると、買物の種類ごとに買い回りをしていく様子が見られる。特に低所得層に多い。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・来客数、買上点数、一品単価、客単価とすべてにおいて減少傾向がみられ、売上上昇の兆しは全く感じられない。
	パチンコ店（店員）	来客数の動き	・遊技機に対する行政指導が厳しくなっているほか、金融関係からの資金調達条件も厳しくなってきた。
企業動向関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-

変わらない	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州や米国での受注は順調であるが、国内市場が冷えており、全体的には変化がない。
	精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・眼鏡の受注価格は、高付加価値商品でやや上昇傾向にあるが、一方では中・低価格商品への値引き要請も強く、トータル的には現状維持から微増の状況である。
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・耐震強度の問題で建築確認申請の審査が下りにくくなっており、販売に影響が出ている。
やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候不順のため一般衣料の動きは非常に悪い。コストの上昇も苦戦の一因である。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・原油の値上がりにより、製品単価が上昇し、荷動きが悪くなっている。また輸送コストの増加も痛い。
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・主力の長距離輸送では利益が出にくい。車両と燃料費の負担が大きく、運賃への転嫁ができない。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込チラシのサイズや対象地域を縮小するクライアントが多くなってきた。
	司法書士	取引先の様子	・建設業関係で破産が増加しており、歴史のある会社の破産も見られる。
	税理士（所長）	取引先の様子	・ガソリン価格の高騰、食料品の値上げなど生活関連物価が上昇しているが、賃金は低いまま推移し、消費の低迷が続いている。このため、各事業主の間で先行きの不透明感が広がっている。
悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の削減による受注量減少から、7～9月の完成工事高は少なく、6月末に比べて9月末の赤字幅が増加した。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年に比べ求職者数、求人数とも減ってきている。特に技術力のある求職者が少ないため、求人ニーズに合致しない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・金融機関からの求人は内部事務、渉外業務を問わず、引き続きおう盛である。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はここ2か月間前年比で減少傾向となっており、産業別では製造業を中心に減少が見られる。
	民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・正社員の募集・採用企業が多くなったためか、派遣登録者数が減少している。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年に比べて減少に転じている。中でもパート求人の落ち込みが大きい。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告量は前年に比べ3割減となった。